昭和女子大学現代ビジネス研究所ワーキングペーパー
No.12
2024 年 1 月

女子大学生と男子中学生が一緒に考えるプロジェクト

小森亜紀子[1]、金井日那[2]、大垣華琳[3]、岡田穂香[4]、
尾形瑠奈[5]、尾崎光[6]、増田楓華[7]、前田ひとみ[8]

Project for female college students and boys' junior high school students to think together

KOMORI Akiko/ KANAI Hina / OGAKI Karin / OKADA Honoka
OGATA Runa / OZAKI Hikari / MASUDA Fuka / MAEDA Hitomi

1. はじめに

1 - 1. 本プロジェクト活動の背景と目的

少子高齢化が進み、合計特殊出生率の低下にも歯止めがかからない。日本経済の担い手として女性の社会進出が求められているが、女性自身の継続就業への意識、昇進意欲も低く、社会に根深く残る性別役割分担意識、無意識のバイアスの払拭が必要である。2023 年のジェンダーギャップ指数は、146 か国中 125 位（前年 116 位）であった。少子化対策が議論されているが、女性が出産で仕事を辞めるマイナスコストについては触れられていないし、未婚化・非婚化につながるワーク・ライフ・バランスについて十分配慮はなされていない。

女性の問題は男性の問題でもあり、出産により妻が稼ぎ手から退出した場合、家計は男性の肩にかかることとなる。電通総研が 2021 年に男性対象に実施した調査では、半数近くが「男性の方が女性よりも生きづらい」と回答している。しかし、「若い世代で家事や育児について消極的な考えが多い」というパラドックスも垣間見える。

本プロジェクトの目的は、なかなか接する機会のない存在である「女子大学生」と「男子

---

[1] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科准教授／現代ビジネス研究所事務局長

[2] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 4 年

[3] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 3 年

[4] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 3 年

[5] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 3 年

[6] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 3 年

[7] 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 3 年

[8] 昭和女子大学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科 4 年

中学生」が、ジェンダーについて一緒に考え、異なる立場の人の意見に耳を傾け、立ち止まって考え、他と歩み寄る機会を創出することである。

1 - 2.　先行研究

学生が授業資料を作成する中で行った先行研究については、初年度導入部分に使用した、「ディズニープリンセスの変遷」と、2023 年度の授業のトピックである、「男女別学」について記載する。

ディズニー映画は全世界で見られており、登場するプリンセス像はその時代の社会背景を反映し、変化している。李、高橋（2011）や島田（2022）によると、初期のプリンセスである「白雪姫（1937)」「シンデレラ（1949)」オーロラ姫（眠れる森の美女 1959)」は、自分の置かれた状況から助け出してくれる王子を待ち、王子との結婚が幸せな結末となっている。

それら初期のプリンセスと比較して、「アリエル（リトルマーメイド 1989)」「ベル（美女と野獣 1991)」など、自分の意思を貫く強い女性が描かれ始める。1966 年インドでインディラ・ガンジーが、1979 年英国でマーガレット・サッチャーが首相になり、その後各国で女性首相が多く誕生している時代である。

その次には、「ジャスミン（アラジン 1992)」「ポカホンタス（1995)」「ムーラン（1998)」「ティアナ（プリンセスと魔法のキス 2009)」で、中東の架空の国、アメリカの先住民、アジア人、黒人のプリンセスが登場する。南アフリカでネルソン・マンデラ氏が大統領になったのが 1994 年で、多様な文化・人種のプリンセスが描かれ始める。

そして、現代的価値観と強い女性像の「ラプンツェル（塔の上のラプンツェル 2010)」「メリダ（メリダとおそろしの森 2012)」「アナとエルサ（アナと雪の女王 2013)」「モアナ（モアナと伝説の海 2016)」が登場する。プリンス役が登場しない物語も誕生し、女性の生き方、男性とのかかわり方に変化が見られる。

男女別学については、文部科学省（1981）によると、江戸時代から男女の教育には差があり、女子には男子のような学問による高い教養が必要ないとされ、女子教育の内容は女子的教養、女の「たしなみ」が重視されていた。明治時代になり、中学校以上の女子教育の方針がなかったため、女学校が設置された。明治 15 年には女子師範附属高等女学校が設立され、尋常小学校を終了したのちは男女別学が確立した。男子は尋常小学校、尋常中学校、高等学校、帝国大学という道があるのに対して、女子は高等女学校に進み、家政を中心として婦人としての実務教育を受け、男子の実学・実業教育とは大きく異なる内容であった。男子は国を担うため、女子は夫や子どもを支えるための教育であったと言える。

大正時代になると帝国大学への女子入学が認められ、戦後の 1948 年、女子も希望する大学に入学することができるようになった。現在、男女別学の学校は減少しており、公立校の 9 割以上が共学となっている。海外の動向を見ると、宮島（2002）、友野（2014）、安東（2022）の研究によると、アメリカでは男女別学が減少しているが、韓国、イギリスでは成績上位高

校に男女別学の学校が見られる。

2. 活動の内容

2020 年 1 月に昭和女子大学現代ビジネス研究所主催のジェンダー平等を考えるセミナーに、駒場東邦中学校の教員が生徒数名と参加したことをきっかけに、共同での企画実施を検討したことから開始した。駒場東邦中学校 1 年生と女子大学生が一年に 1 回、中学生が 1 年生から 3 年生になるまで、継続して実施することとした。

2020 年度、2021 年度は、新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言のため、2 月にオンラインで開催した。中学生 約 230 名と大学生約 20 名が、駒場東邦中学校のロングホームルームの時間に、一緒に考える授業を実施した。中学生は 6 クラスに分かれ、Zoom を利用して、昭和女子大学生がファシリテーターを務めて進行をした。

2020 年度はトピック 1「ディズニープリンセスの変遷」、トピック 2「ファースト・ジェントルマン」のテーマについて、女子大学生と男子中学生が一緒に考えた。トピック 1「ディズニープリンセスの変遷」では、プリンセスに対して自分の持つイメージを考えてもらった上で、プリンセス像の変遷と時代の社会背景について考察した。トピック 2「ファースト・ジェントルマン」では、アメリカのバイデン大統領の妻でファーストレディのジル氏（夫の大統領就任後も教育者として仕事を継続した）と、副大統領カマラ・ハリス氏の夫でセカンド・ジェントルマンのダグラス・エムホフ氏（弁護士の職を休職し妻を支えている）を紹介し、自分がファースト・ジェントルマンになったらどうするかを一緒に考えた。

2021 年度はトピック 1「こんなとき、あなたならどう思う？」とトピック 2「世の中の反応から見る固定概念の変化」をテーマとして、もし自分に障がいがあったならと想像し、ユニバーサルデザインについて意見交換をし、インクルーシブ教育の必要性、多様性を認め合うことについて学んだ。固定概念については、炎上した CM を一緒に見ることにより、どのように感じたかを共有し、誰もが無意識のバイアスを持っていることを共有し、一度立ち止まって当たり前を疑い、視野を広く持ち、誰もが自分らしい生き方を自由に選択できることの大切さを考えた。

2022 年度はプロジェクトの最終年度にあたり、駒場東邦中学 3 年生約 230 名が、昭和女子大学に来校して、女子大学生 24 名と初めて対面で実施した。最初に大教室で全員参加型の発表とディスカッションを行った。男子中学生と女子大学生に実施した事前アンケートの結果の比較分析をしながら、トピック 1「歩み寄るということを考えてみよう」という内容のグループワークを行い、その後、中学生は 6 教室に分かれて、女子大学生がファシリテーターとなり、トピック 2「男女別学のメリット・デメリットについて」、トピック 3「仕事と役職について考えてみよう」という内容のディスカッションを行った。

男女別学については、最初に、男女別学のメリット・デメリットを出し合い、別学という環境がなぜあるのか、江戸時代からの歴史と共に学んだ。明治時代で公布された教育令では、男女で教育を受ける環境の差があることを知ってもらった。「将来、男女別学は必要か？」

というテーマを考えるにあたって、「男子校に入学した理由」「共学と別学どちらの方が勉強に集中できるか」について考える時間を取り、男女別学の在り方について意見を交わした。

「仕事と役職について考えてみよう」では、最初に男子中学生に「もし男子校の先生が全員女性だったら」という議題で話し合ってもらい、異性に対してどのような配慮が必要か考えてもらった。その配慮をもとに、性別で偏りのある職業や、実際の企業で行われている制度を紹介し、その後、様々な状況で自分が経営者の立場だったらどのような制度をとるかなどのディスカッションを行った。

終了後希望する中学生に、本学学生がガイドとなり、本学（含むテンプル大学ジャパンキャンパス）のキャンパスツアーを行った。

3.　事前アンケート・フィードバックシートの分析

3 - 1.　事前アンケート分析

3 年間の中学生の意識の変化を見るために、授業実施前に同じ設問のアンケートを毎年実施した。最終年度は男子中学生と女子大学生を比較するために、女子大学生にもアンケート調査を実施した。2020 年度の回答数 212、2021 年度の回答数 216、2022 年度の回答数は男子中学生 215、女子大学生 104 であった。

（1）　質問項目

①あなたの兄弟構成を教えてください。
②昭和女子大生とのかかわりを経て、女子大学生へのイメージは変化しましたか。またどのような印象に変化しましたか（自由記述）。
③あなたは異性(家族・教員以外)と話す機会はありますか。
④夢に向かって行動を起こしていると思いますか。
⑤人前で話すことは得意ですか。
⑥人と違う意見を持つことは気になりますか。
⑦将来一緒に過ごすとしたらどんな人が良いですか。
⑧あなたは将来働くことになりました。仕事をする上で最も大切だと思うことはなんですか。
⑨「夫が外で働き、妻が家庭を守るべき」という考え方に賛成ですか。
⑩今の日本に男女による格差（ジェンダーギャップ）があると思いますか。
⑪上記の⑩でなぜその選択肢にしたのか簡単に書いてください（自由記述）。

（2）　集計結果

①と自由記述回答以外の、3 年間のデータを併せて記載する。2022 年度に関しては、女子大学生の回答も記載している。⑦は、2022 年度は 4 件法の回答に変更したので標記の仕方が異なる。3 年間で回答に変化があったかどうかをクロス集計で検討した。

③あなたは異性(家族・教員以外)と話す機会はありますか（表 1)。

表1　あなたは異性(家族・教員以外)と話す機会はありますか。

		ない	あまりない	ややある	ある	合計	P
一年次	n	77	72	32	31	212	n.s.
	%	36.3%	34.0%	15.1%	14.6%	100.0%	
二年次	n	83	62	39	32	216	
	%	38.4%	28.7%	18.1%	14.8%	100.0%	
三年次	n	91	49	42	33	215	
	%	42.3%	22.8%	19.5%	15.3%	100.0%	
合計	n	251	183	113	96	643	
	%	39.0%	28.5%	17.6%	14.9%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。

＊学年による差は見られないが、異性と話す機会が「ない」「あまりない」の回答が多い。

④夢に向かって行動を起こしていると思いますか（表 2)。

表2　夢に向かって行動を起こしていると思いますか

		思わない	あまり思わない	やや思う	そう思う	合計	P
一年次	n	29	85	80	18	212	＊
	%	13.7%	40.1%	37.7%	8.5%	100.0%	
二年次	n	35	109	54	18	216	
	%	16.2%	50.5%	25.0%	8.3%	100.0%	
三年次	n	50	90	56	19	215	
	%	23.3%	41.9%	26.0%	8.8%	100.0%	
合計	n	114	284	190	55	643	
	%	17.7%	44.2%	29.5%	8.6%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。＊ $p < 0.05$

＊この設問に対する回答は学年による、有意な差が見られた。3 年生になると、夢に向かった行動を起こしていないという自己評価が増えている。

⑤人前で話すことは得意ですか（表 3)。

表3　人前で話すことは得意ですか。

		苦手	やや苦手	やや得意	得意	合計	p
一年次	n	24	76	77	35	212	**
	%	11.3%	35.8%	36.3%	16.5%	100.0%	
二年次	n	38	87	65	26	216	
	%	17.6%	40.3%	30.1%	12.0%	100.0%	
三年次	n	45	97	52	21	215	
	%	20.9%	45.1%	24.2%	9.8%	100.0%	
合計	n	107	260	194	82	643	
	%	16.6%	40.4%	30.2%	12.8%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。** p <0.01

＊この設問に対する回答にも、学年による有意な差が見られた。学年が上がるにつれ、人前で話すことが苦手とするものが増えている。

⑥人と違う意見を持つことは気になりますか（表 4)。

表4　人と違う意見を持つことは気になりますか。

		気になる	やや気になる	あまり気にならない	気にならない	合計	p
一年次	n	14	64	82	52	212	n.s.
	%	6.6%	30.2%	38.7%	24.5%	100.0%	
二年次	n	11	72	96	37	216	
	%	5.1%	33.3%	44.4%	17.1%	100.0%	
三年次	n	13	81	76	45	215	
	%	6.0%	37.7%	35.3%	20.9%	100.0%	
合計	n	38	217	254	134	643	
	%	5.9%	33.7%	39.5%	20.8%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。

＊この設問は学年による回答の差はなく、人と違う意見を持つことにあまり抵抗がない生徒が多数派となっている。

⑦将来一緒に過ごすとしたらどんな人が良いですか（表 5)。

表5　将来一緒に過ごすとしたらどんな人が良いですか。(2020年度・2021年度)

		家事が得意	子供が好き	外見が整っている	仕事熱心	収入が高い	合計	p
一年次	n	81	41	38	33	18	211	**
	%	38.4%	19.4%	18.0%	15.6%	8.5%	100.0%	
二年次	n	10	72	96	38	0	216	
	%	4.6%	33.3%	44.4%	17.6%	0.0%	100.0%	
合計	n	91	113	134	71	18	427	
	%	21.3%	26.5%	31.4%	16.6%	4.2%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。** p <0.01

＊中学 1 年次より 2 年次の方が「外見が整っている」を重視するものが増え、パートナーに高収入は望まなくなっている。

＊中学 3 年次は 4 件法で回答してもらったので、この表には含まれない。

中学 3 年次には、将来一緒に過ごすとしたらどんな人がよいか各項目 4 件法で回答してもらい、女子大学生にも同じ設問のアンケートを実施して、回答を比較した（図 1)。

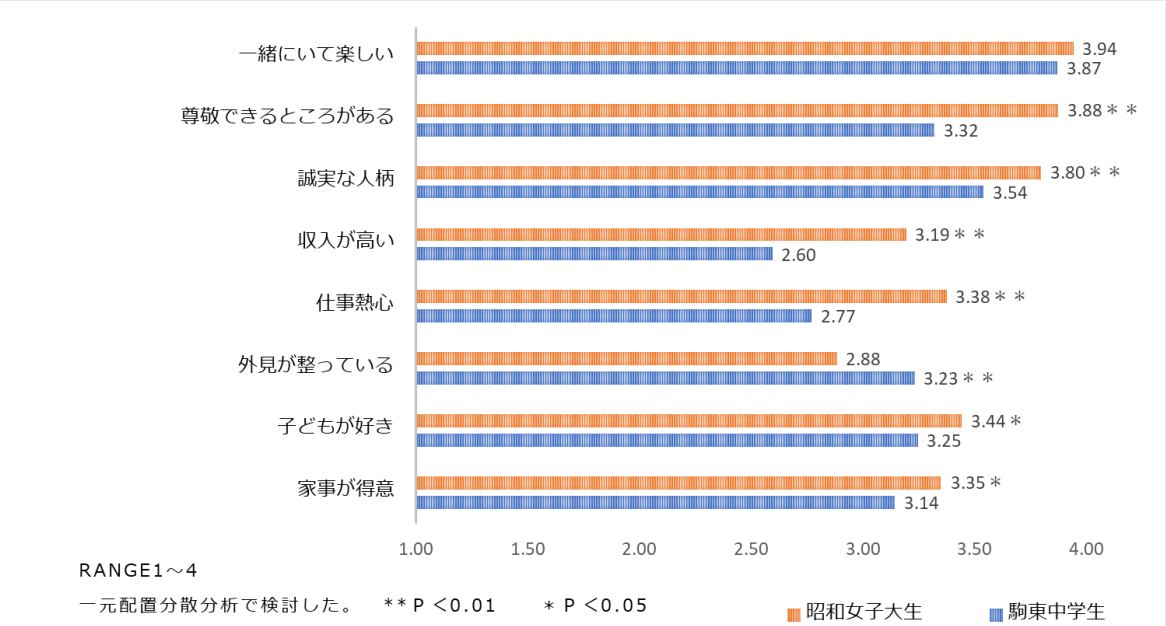

図1　将来一緒に過ごしたい人

＊男子中学生と、女子大学生の回答の 4 件法の回答の平均を比較したところ、有意に差があったのは、次のとおりである。男子中学生の方が「外見が整っている」が高く、女子大生の得点が高かったのは「尊敬できるところがある」「誠実な人

柄」「収入が高い」「仕事熱心」「子ども好き」「家事が得意」であった。

＊大教室での全体グループワークの時に、女子大学生から「外見が整っていたら、性格は悪くてもいいのですか？」との質問に対して、「かわいいだけじゃだめだな」というざわめきが起きていた。

＊また「パートナーに高収入を望んでいないが、もしあなたが病気やけがをしたとき、家族の経済状況は大丈夫でしょうか？」という質問に治しては、「考えていなかった！」「リスクヘッジが必要だ」という素直な反応であった。

⑧あなたは将来働くことになりました。仕事をする上で最も大切だと思うことはなんですか（表 6）。

表6　あなたは将来働くことになりました。仕事をする上で最も大切だと思うことはなんですか。

		社会の役に立つことができる	高い収入を得ることできる	高い地位や名声を得る	好きな仕事を好きなだけできる	家族、友人との時間が大切にできる	合計	P
一年次	n	46	34	3	74	55	212	**
	%	21.7%	16.0%	1.4%	34.9%	25.9%	100.0%	
二年次	n	35	52	4	69	56	216	
	%	16.2%	24.1%	1.9%	31.9%	25.9%	100.0%	
三年次	n	24	63	4	46	78	215	
	%	11.2%	29.3%	1.9%	21.4%	36.3%	100.0%	
合計	n	105	149	11	189	189	643	
	%	16.3%	23.2%	1.7%	29.4%	29.4%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。** p <0.01

＊この設問に対する回答は学年により有意な差があった。1 年次と比較して、「社会の役に立つことができる」「好きな仕事を好きなだけできる」の回答が減少し、高学年になるほど、「高い収入を得ることができる」「家族、友人との時間が大切にできる」の回答が増加した。

⑨「夫が外で働き、妻が家庭を守るべき」という考え方に賛成ですか（表 7）。

＊この設問への回答は学年による有意差は見られなかった。しかし、賛成・やや賛成が他国と比較して多いところが気になる部分である。

＊女子大学生も、賛成・やや賛成と回答するものが、19.2%存在した。

表7　「夫が外で働き、妻が家庭を守るべき」という考え方に賛成ですか。

		賛成	やや賛成	やや反対	反対	合計	p
一年次	n	11	51	96	54	212	n.s.
	%	5.2%	24.1%	45.3%	25.5%	100.0%	
二年次	n	10	62	82	62	216	
	%	4.6%	28.7%	38.0%	28.7%	100.0%	
三年次	n	11	71	86	47	215	
	%	5.1%	33.0%	40.0%	21.9%	100.0%	
合計	n	32	184	264	163	643	
	%	5.0%	28.6%	41.1%	25.3%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。

⑩今の日本に男女による格差（ジェンダーギャップ）があると思いますか（表 8)。

表8　今の日本に男女による格差（ジェンダーギャップ）があると思いますか。

		男性が優遇されている	女性が優遇されている	性別の格差はない	合計	p
一年次	n	140	31	41	212	*
	%	66.0%	14.6%	19.3%	100.0%	
二年次	n	131	26	59	216	
	%	60.6%	12.0%	27.3%	100.0%	
三年次	n	139	15	61	215	
	%	64.7%	7.0%	28.4%	100.0%	
合計	n	410	72	161	643	
	%	63.8%	11.2%	25.0%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。＊p ＜0.05

＊1 年次と比較して「女性が優遇されている」の回答が減少し、「性別の格差はない」の回答が増加した。

3 - 2.　フィードバックシートの分析

本プロジェクトの効果の検証のため、3 年間毎回授業終了後に時間を取り、その場でフィードバックシート用紙に回答を記入してもらった。以下にその結果をまとめる。

（1）質問項目

①このプログラムに積極的に取り組めましたか。

②-1 特に興味を持ったテーマはどれですか。
　　トピック毎にそれぞれ１つずつ選んでください。（トピック①）
②-2 特に興味を持ったテーマはどれですか。
　　トピック毎にそれぞれ１つずつ選んでください。（トピック②）
②-3 特に興味を持ったテーマはどれですか。
　　トピック毎にそれぞれ１つずつ選んでください。（トピック③）
③-1 今日の授業を通して考えたこと、新しく学べたことなどを
　　具体的に書いてください（自由記述）。（トピック①）
③-2 今日の授業を通して考えたこと、新しく学べたことなどを
　　具体的に書いてください（自由記述）。（トピック②）
③-3 今日の授業を通して考えたこと、新しく学べたことなどを
　　具体的に書いてください（自由記述）。（トピック③）
④「無意識のバイアス」がどういうことか、昨年度より理解できましたか。
⑤今まで自分の中に無意識のバイアスがあった経験はありますか。
⑥-1「はい」と答えた人は、その経験から今後どう行動したいと感じましたか（自由記述）。
⑥-2「いいえ」と答えた方は、今後無意識のバイアスに直面した際にどのように心掛けたいですか（自由記述）。
⑦3 年間大学生と授業で対話してみて、どのように感じましたか（自由記述）。
⑧昭和女子大学に来校してみてどのように感じましたか（自由記述）。

（２）集計結果

設問①④に対する回答について、学年による差の有無をクロス集計で検討していく。

①このプログラムに積極的に取り組めましたか（表 9）。

表9　このプログラムに積極的に取り組めましたか。

		あまり取り組めなかった	取り組めた	よく取り組めた	合計	p
一年次	n	8	130	95	233	＊＊＊
	%	3.4%	55.8%	40.8%	100.0%	
二年次	n	8	149	67	224	
	%	3.6%	66.5%	29.9%	100.0%	
三年次	n	6	96	124	226	
	%	2.7%	42.5%	54.9%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。*** p <0.001

＊積極的に取り組めなかったという回答は 3 年間を通して無く、よく取り組めた

とする回答は 3 年次が一番多く、嬉しい回答であった。

④「無意識のバイアス」がどういうことか、昨年度より理解できましたか（表 10）。

表10「無意識のバイアス」がどういうことか、昨年度より理解できましたか。

		あまり理解できなかった	理解できた	よく理解できた	合計	p
1年次	n	1	77	153	231	＊＊＊
	%	0.4%	33.3%	66.2%	100.0%	
2年次	n	4	145	77	226	
	%	1.8%	64.2%	34.1%	100.0%	
3年次	n	2	112	111	225	
	%	0.9%	49.8%	49.3%	100.0%	

Peasonのχ2乗検定で検討した。*** p <0.001

＊「無意識のバイアス」という言葉に初めて出会った 1 年次が「よく理解できた」という回答が多いが、おおむね 3 年間昨年度より「理解できた」「よく理解できた」という回答が多い。

⑤今まで自分の中に無意識のバイアスがあった経験はありますか。

＊この設問には、3 年次 208 名（92.0%）の生徒が「自分の中に無意識のバイアスがあった」と回答している。

次に、3 年次のフィードバックシートの自由記述回答の結果を見ていきたい。3 年目のプログラム冒頭に実施した「男子中学生と女子大学生のアンケート回答の比較[9]」について考えたことの 228 件の回答の一部を記述する。

・価値観の違いというのは簡単になくなることはないと思うが、理解し合うことはできると思うので、まずは相手の意見を聞いてみることをした方が良いと考えた。
・大学生があまり容姿をあまり重視していないということを知って自分にも希望があるなと感じた。
・男子中学生は高収入を将来パートナーに求めていないのは、男は仕事で女は家事という意識が残っているからなのかな～と思った。
・自分が無意識に「女性はこういうもの」と考えてしまっている所があると気づいた。

[9] 設問③-1 今日の授業を通して考えたこと、新しく学べたことなどを具体的に書いてください（自由記述）。（トピック①）

・誠実さが大事そうなので今後からもしっかり自分を磨いていきたい。
・一緒に暮らす上で一番大切になることを改めて考えた。
・パートナーとなるのだから見た目より一緒にいて楽しい人がいい。
・女性視点からの意見を知ることができた。
・家事もしっかりやっていきたい。
・男子中学生も女子大生もお互いに家事ができるようになるとハッピー！
・自分のパートナーに高収入であることを求めるかどうかについて悩んだ。

これらの自由記述全体を KH コーダーでテキストマイニング分析をして、共起ネットワーク図を作成すると下記のようになる。

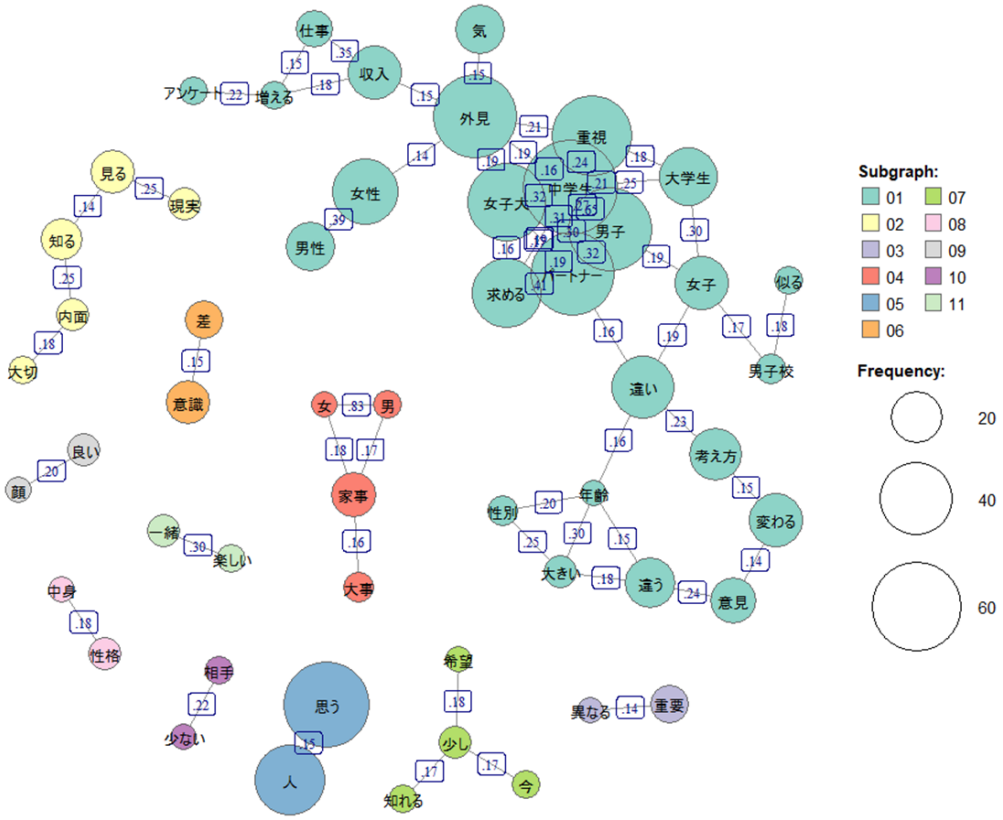

図 2　女子大学生との比較から考えたこと

3 年次、92%が「自分の中に無意識のバイアスがあった」と回答したが、その経験から今後どう行動するかと聞いた設問[10]に対する 228 件の回答の一部は次の通りである。

・いろいろな場面で相手や他の人の立場にたって考えてみることが大切だと思った。

[10] ⑥-1「はい」と答えた人（無意識のバイアスがあった人）は、その経験から今後どう行動したいと感じましたか（自由記述）。

・言葉に出す前に一回考えたいと思った。
・自分の中の無意識のバイアスを取り除き、広い視点で行動したいと感じた。
・何事においても、自分が優れていると考えるのをやめ、相手を尊重すべき。
・客観的に考えられるようにしたい。
・立場が違う人と話すことを増やしていくべきだと感じた。
・バイアスがあることを認識し、バイアスに左右されない行動をする。

すべての自由記述をテキストマイニングし、共起ネットワーク図にまとめたものが図 3 である。

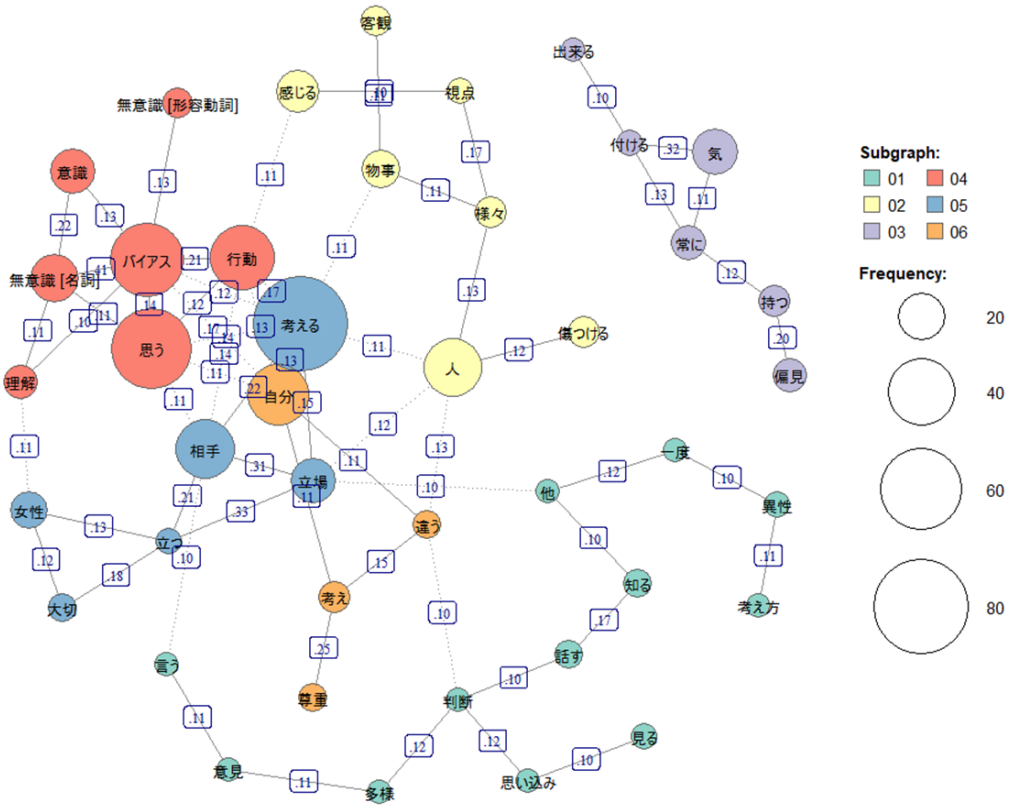

図 3　無意識のバイアスに気付き、今後どう行動するか。

3 年間大学生と授業で対話してみて、どのように感じたか[11]への回答のいくつかを以下に紹介する。

・自分たちと女子大生で立場が異なるので新鮮な情報や考えが得られ、視野を広げることができたと感じた。
・自分にはなかった価値観を共有してもらえて、有意義に感じた。

[11] ⑦3 年間大学生と授業で対話してみて、どのように感じましたか（自由記述）。

・自分の中にあった偏見を自覚することができ、それについて考えることができた。
・このような機会があるからこそ、男子校でも考えが偏らずにすんでいると感じている。
・同じ男子間でも様々な意見を持っているということを再確認できた。
・自分の視野がいかに狭かったか実感した。
・普段経験できないことなのでとても興味深かった。
・3 年間で自分の価値観が変わったと思う。
・人生の参考になった。
・多様性を認めるのは素敵なことだ。

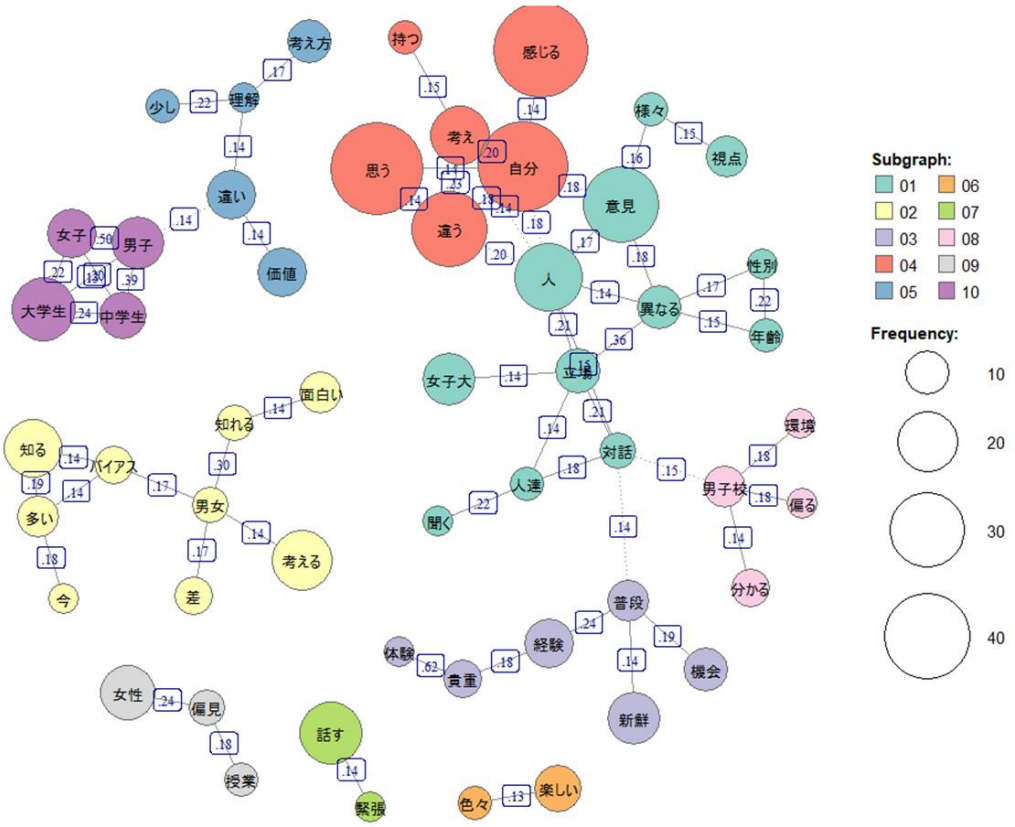

図 4　3 年間大学生と授業で対話してみて、どのように感じたか

4.　3 年間のプロジェクトを終了しての考察

4 - 1.　事前アンケートの考察

3 年間の事前アンケートからうかがえたことは、以下の通りである。

（1）　教員・家族以外の異性と話す機会が少ない。
（2）　夢に向かった行動をまだ起こしていないと学年が上がるにつれ自己判断している。
（3）　人前で話すことも学年が上がるにつれ、苦手となっている。
（4）　人と違う意見を持つことに抵抗を感じない生徒が多数派で、学年による差はない。

（５） 将来一緒に過ごすとしたらどんな人がよいかの 4 件法の回答は、高得点なものから順に「一緒にいて楽しい（3.87)」「誠実な人柄（3.54)」「尊敬できるところがある（3.32)」「子ども好き（3.25)」「外見が整っている（3.23)」で、「仕事熱心である（2.77)」「収入が高い（2.60)」は低い得点となっている。

（６） 仕事する上で最も大事なことの回答は学年により差があり、1 年次と比較して、3 年次は「社会の役に立つことができる」「好きな仕事を好きなだけできる」の回答が減少し、高学年になるほど、「高い収入を得ることができる」「家族、友人との時間が大切にできる」の回答が増加した。

（７） 「夫が外で働き妻が家庭を守るべきという考え方に賛成か」という設問への回答に学年による差はなかった。3 年次で 38.1%が「賛成・やや賛成」と回答している。

（８） 今の日本に男女による格差（ジェンダーギャップ）があると思うかには、1 年次と比較して、3 年次は「女性が優遇されている」の回答が減少し、「性別の格差はない」の回答が増加した。

性別役割分担意識については女子大学生も 19.2%が「賛成・やや賛成」と回答している。男子中学生・女子大学生の回答は、成人日本人男性 25.0%／女性 17.0%、韓国人男性 24.4%／女性 9.2%、フランス人男性 7.3%／女性 5.1%（小森 2023）等と比較しても高く、若い世代の意識の変革が必要であることがわかる。

4 - 2. フィードバックシートの考察

3 年間のフィードバックシートからは以下のようなことがわかった。

（１） プログラムに積極的に取り組めたかという設問に「よく取り組めた・取り組めた」と回答した生徒は 3 年次で 97.3%であった。

（２） 「無意識のバイアス」がどういうことか、昨年度より理解できたかという設問の回答は 3 年次 99.1%が「よく取り組めた・取り組めた」と回答し、学年が上がるごとに前向きな回答が増えた。

（３） 今まで自分の中に無意識のバイアスがあった経験はあったかという設問には 3 年次 92.0%が「あった」と回答し、その経験から今後どう行動するかという設問には、紙幅の関係上書ききれないほどの自由記述の回答があった。

（４） 3 年間大学生と授業で対話してみて、どのように感じたかという設問への自由記述の回答もたいへん前向きな回答が多かった。

視野を広げ、価値観を共有し、客観的に考え、自分の中のバイアスに気付くことが大切と多くの生徒が回答してくれた。約 230 名の男子中学生と 3 年間プロジェクトを継続する機会をいただいたことが将来少しでも役に立ったら、こんなに嬉しいことはない。

4 - 3. 参加女子大学生の感想

本プロジェクトには 3 年間延べ 87 名の女子大学生が関わった。活動の中心は 3 年生であ

ったが、毎年卒業を控えた 4 年生がサポート役となり、下級生の指導にあたった。

学生が話し合いを重ねて毎年の授業の内容を決めてゆき、駒場東邦中学校の先生方にご意見をいただき、修正を重ねるという作業の繰り返しであった。授業のトピックを考える中で自らの無意識のバイアスに気付くことも多かったようである

2022 年度プロジェクト参加女子大学生の感想は以下のとおりである。

＊別学と役職という難しい内容であったが、グループワークを通じて生徒の皆様がよく考えて参加してくれたと思う。

＊パワーポイントや台本作成に時間を割いたが、本日の授業で生徒の皆さんが楽しく授業を受けている所を見て、今までの努力が報われたと感じた。

＊意見を発言してくれたときのコメントやフォローをしたことがなかったので難しかったがとても良い経験になった。

＊内容を試行錯誤した別学の歴史のレクチャーを、グループワークの際に根拠として使ってくれた生徒さんがいて、悩んだかいがあったと嬉しく思った。

＊このプロジェクトを通して男子中学生と女子大生お互いに自分の中のバイアスに気づくきっかけが持てて良かった。

＊授業をする経験が無かったのでとても不安でしたが、生徒さんの反応も良く楽しんでグループワークに取り組んでくれていて、安心して授業を進めることができた。

＊男子中学生の意見は非常に新鮮で、ジェンダー格差をなくすためには、自分自身も男性の気持ちを理解する姿勢を忘れてはいけないと感じた。

＊今年のワークは昨年よりも一段と難しい内容だったが、グループワークを通じて多くの意見を出してくれたように感じた。

＊意見を述べる際にも、理由もしっかり述べてくれた点は昨年と比較して生徒たちの成長が見えた。

＊コスモスホールで感じたこととしては、高収入を目指す理由に日本の景気をしっかり理解している生徒がおり、社会に視野を広げて考える姿勢に感心した。

＊生徒の中にはまだ幼い考え方をする生徒もいたが、物事を現実的に考える生徒もいたのが印象的だった。

＊中学生の皆さんの発想力と発言力は大学生の私自身もとても勉強になりました。

＊今までは意見を述べる側だったので、意見を聞く（授業をする）側に徹することは思ったよりも難しかった。

＊将来、先生の立場になることはないと思っていたので、一度でも経験をすることが出来て良かった。

＊論理的に授業の内容を作っていくことが大変な作業だとわかった。しかし、授業を作っていく中で自分自身の偏見や世の中の動向にも気づいていくことができた。

＊プロジェクト全体を通し、別学の利点について、男女といった何かの括りではなく、自分自身はどうかという視点から物事を見つめられることが挙げられると考えた。プロジェ

クトを通して身に付けた視点を今後に活かしていきたいです。

＊9 人の方とキャンパスツアーを回ったが、沢山興味を示してくれて、とても嬉しく感じた。学生食堂とテンプル大学ジャパンキャンパスでの盛り上がりが凄かった。

＊学生のみんなが細かい違いに反応してくれたし、大学生側にも新たな発見があり面白かった。

5. 3 年間のプロジェクトを終了して

2020 年度・2021 年度はコロナ渦のため、オンラインでの実施となり、2022 年度初めて対面での実施となった。しかし、1 年に 1 日の経験であっても、過去 2 年間の積み重ねの上に成立した、対面でのアクティブラーニングであったと感じた。「異性と話す機会が少ない」と回答した男子中学生が、女子大学生が提示するテーマに、素直に真摯に向き合い、意見を交わし、ワークに取り組み、積極的に発表する姿に、これからの社会を主体的に背負っていくという意識が見えたように感じられた。

特に 2022 年度、定員 320 名の女子大学の大教室を埋め尽くす、制服姿の男子中学生の姿は圧巻であった。230 名の中学生の動線の確保等、前日までリハーサルが続いたが、6 教室への移動も予定通り順調に進み、終了後のキャンパスツアーまで問題なく実施できた。キャンパスツアーの実施に協力いただいた関係者各位に感謝申し上げる。特に、快く学内ツアーを許可してくださった、フィラデルフィア州立テンプル大学ジャパンキャンパスの皆様のおかげで、多くの中学生が日本の中での異文化体験ができて、多様性を実感できる貴重な機会となった。

3 年間女子大学生の試行錯誤の授業の内容組み立てに、根気強くお付き合いくださり、丁寧にサポートしてくださった駒場東邦中学校の先生方にも心から感謝申し上げたい。

本プロジェクトから派生した活動として、2022 年 10 月 29 日「【地域の教育支援活動】世田谷区立教育総合センターSTEAM 教育事業」において、世田谷区の小学生を対象に本学女子大学生 6 名で「ディズニープリンセスと王子様についての変遷を考えてみよう！」を実施した。小学 3 年生から 5 年生までが熱心に話を聞き、たくさん意見を出してくれた。

また、2023 年 11 月 18 日には、本郷中学校・高等学校、獨協中学校・高等学校の男子生徒 25 名（各校教員 2 名含む）と本学女子大学生 5 名が一緒に「無意識のバイアスについて考える」というアクティブラーニング型授業を実施した。1 回のみ約 3 時間半の取り組みであったが、男子高校生との協働経験は初めてであったので貴重な機会であった。他人の意見をメモしながら聞き、積極的に発言する男子中高生に女子大学生は勇気づけられたし、フィードバックシートに、多様な立場から物事を考えられるようにしたいと記載してくれており、駒場東邦中学校との取り組みの経験を活かすことができたと感じることができた。

このような取り組みが多くの大学・中学校・高等学校で展開されることを切に希望するところである。

＜資料＞メディアからの取材

本プロジェクトは多くのメディアから取材を受けた。取材を受けることも女子大学生にとって貴重な経験であった。取材を受けたメディアの一覧は表 11 のとおりである。

表 11　取材メディア一覧

日時	取材先	内容
2021/2/24	日本テレビ	日テレ NEWS「無意識の偏見とは？女子大学生×男子中学生」
2021/3/10	フジテレビ	プライムオンライン「無意識の性差別に気づき解決する女子高校・大学生の取り組みとは」
2021/3/2	毎日新聞	無意識の偏見ありませんか　大学生が中学生にジェンダー平等授業
2021/3/17	朝日新聞	プリンセス『らしさ』？　無意識の偏見に挑む学生たち
2021/7/12	日本教育新聞	プリンセスの変遷 主題に　女子大生、男子中学生と考察
2021/11	朝日新聞	2021 年版朝日新聞 SDGｓで変える「プリンセスは『けなけ？』偏見かも」
2021/3/25	首都圏模試センター	駒場東邦、中 1 が昭和女子大学の学生と無意識のバイアスを考える
2022/1/31	AERA ・ AERA dot.	女子大学生、男子校の中学生に「ジェンダー問題」講義　「無意識のバイアス」気づくきっかけに
2022/3/7	朝日新聞	ジェンダー教育、男子校でも徐々に　駒場東邦では女子大との共同授業
2022/4/15	読売中高生新聞	女子大生と男子校中学生が一緒に考えるプロジェクト
2023/2/27	日本教育新聞電子版	女子大生と男子高生がジェンダー平等考える
2023/2/20	教育新聞	男女別学の女子大生と男子中学生　真逆の立場で考えるジェンダー平等
2023/3/7	朝日新聞	朝刊 23 面(Think Gender)視野を広げて、男子校の取り組み　女子大生と考える、別学・男女の職業
2023/3/8	関西テレビ	報道ランナー「男子校の中学生が女子大で特別授業 男女での社会の役割に… 無意識の偏見　性別ではなく個人のスキルで判断される社会に」 https://www.ktv.jp/news/feature/230308-1/
2023/3/13	首都圏模試センター	駒場東邦、中 3 生が女子大学生と考える

2023/3/19	FNN プライムオンライン	（関西テレビ取材）「男子中学生たち女子大へ行く…男女それぞれの“性別の偏見”早い段階で気付いて欲しい！「特別授業」で変えろ“価値観”【大阪発】」
2023/3/27	大学ジャーナルオンライン	昭和女子大学×駒場東邦中学校「女子大生と男子校中学生が一緒に考えるプロジェクト」の 3 年間の集大成となる授業を開催
2023/3/30	EduA	“最も遠い存在!?”女子大生と男子校生が「他者理解」を考える　昭和女子大×駒場東邦中のプロジェクト
2024/1/5	読売新聞	朝刊 9 面「無意識の偏見に気付く」

＜参考文献＞

安東 由則（2022）「アメリカ・日本・韓国における 女子大学の動向と特性比較」 実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所年報 ８、pp.37-55、実践女子大学、https://x.gd/p8HcW.2023.12.10.

小口功（2014）「日本における男女共学の成立と展開の分析視点」近畿大学教育論叢 26（1）、pp.69-93、近畿大学教職教育部、https://x.gd/Yrqu1. 2023.2.10.

木村涼子(2022) 「日本の教育における ジェンダー平等の過去・現在・未来 ―中等教育に着目して」学術の動向 27 巻 10 号 pp.68-75、https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/27/10/27_10_68/_article/-char/ja/、2023.9.2.

小森亜紀子、大橋重子（2019）「女性活躍推進の取り組みが社員の意識と満足度に与える影響」『昭和女子大学女性文化研究叢書第十一集 女性とキャリアデザイン』御茶の水書房。

小森亜紀子（2023）「日本・フランス・韓国の人々の仕事と家庭に対する意識～学歴は影響を与えるのか～」日本高等教育学会第 26 回大会口頭発表、https://jaher-web.jp/wp-content/uploads/2023/06/jaher_26th_program_20230601.pdf.2023.12.10.

小山 静子 編(2016) 『男女別学の時代―戦前期中等教育のジェンダー比較』日本の教育史学 59 巻、pp.190-192 https://www.jstage.jst.go.jp/article/kyouikushigaku/59/0/59_190/_article/-char/ja/ 、2023.8.17.

電通総研（2021）「男らしさに関する意識調査」vol.7 The Man Box、電通総研コンパス、https://institute.dentsu.com/wp-content/uploads/2021/11/,2023.9.4.

友野清文（2014）「英国における男女共学別学論の動向」学苑 総合教育センター国際学科特集 No.883 97～110（20145）、昭和女子大学、

https://swu.repo.nii.ac.jp/record/5766/files/KJ00009182079.pdf.2023.12.10.
橋本 紀子（1976）「 戦前日本の女子の高等教育要求と制度構想一男女別学か共学かをめぐって一」教育学研究 43 巻 3 号、pp.280-290、
https://www.jstage.jst.go.jp/article/kyoiku1932/43/3/43_3_280/_pdf/- char/ja、2023.9.2.
治部れんげ（2018）『炎上しない企業情報発信 ジェンダーはビジネスの新教養である』日本経済新聞社。
治部れんげ（2021）『ジェンダーで見るヒットドラマ　韓国、アメリカ、欧州、日本』光文社。
島田英子（2022）「ディズニーのフェミニズム プリンセスの女性学と男性」立命館映像学
https://ritsumei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=16029&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1.2023.12.5.
文部科学省（1981）学制百年史＞二　高等女学校令の制定
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317627.htm、2023.8.17.
文部科学省（1981）学制百年史＞三　中学校・高等女学校の学科課程、
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317630.htm、2023.8.17.
宮島　健次（2002）「イギリスにおけるパブリック・スクールの 教育効果の一側面に関する研究 ―パフォーマンス･テーブルの分析を中心に― 」国立教育政策研究所紀要､pp.127-141、国立教育政策研究所、
https://nier.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=199&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1. 2023.2.10.
村田 ひろ子（2023）「ジェンダーをめぐる中高生と親の意識　中学生･高校生の生活と意識 調査 2022 から②」放送研究と調査/73 巻（2023）6 号
https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20230601_5.pdf、2023.8.17.
李　修京・高橋　理美（2011）「ディズニー映画のプリンセス物語に関する考察」東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅰ62、pp.87-122、
http://webcatplus-equal.nii.ac.jp/libportal/DocDetail?txt_docid=NCID%3AA12118309.2023.8.17.